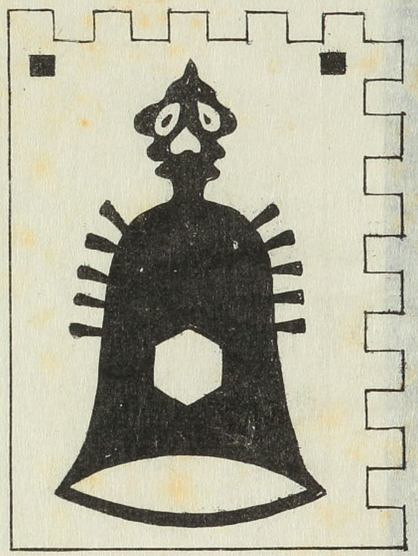
俳諧
草紙

八十八

雜

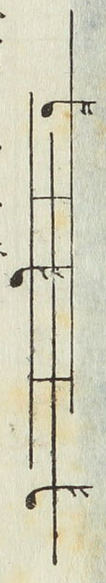
弐



宗祇の短冊

望一が狩帳もあり

——元禄十二年版西鶴名残の友より——



[illegible]

[illegible]

[illegible]

俳諧草紙　八幡鐘　第貳冊

秋之巻

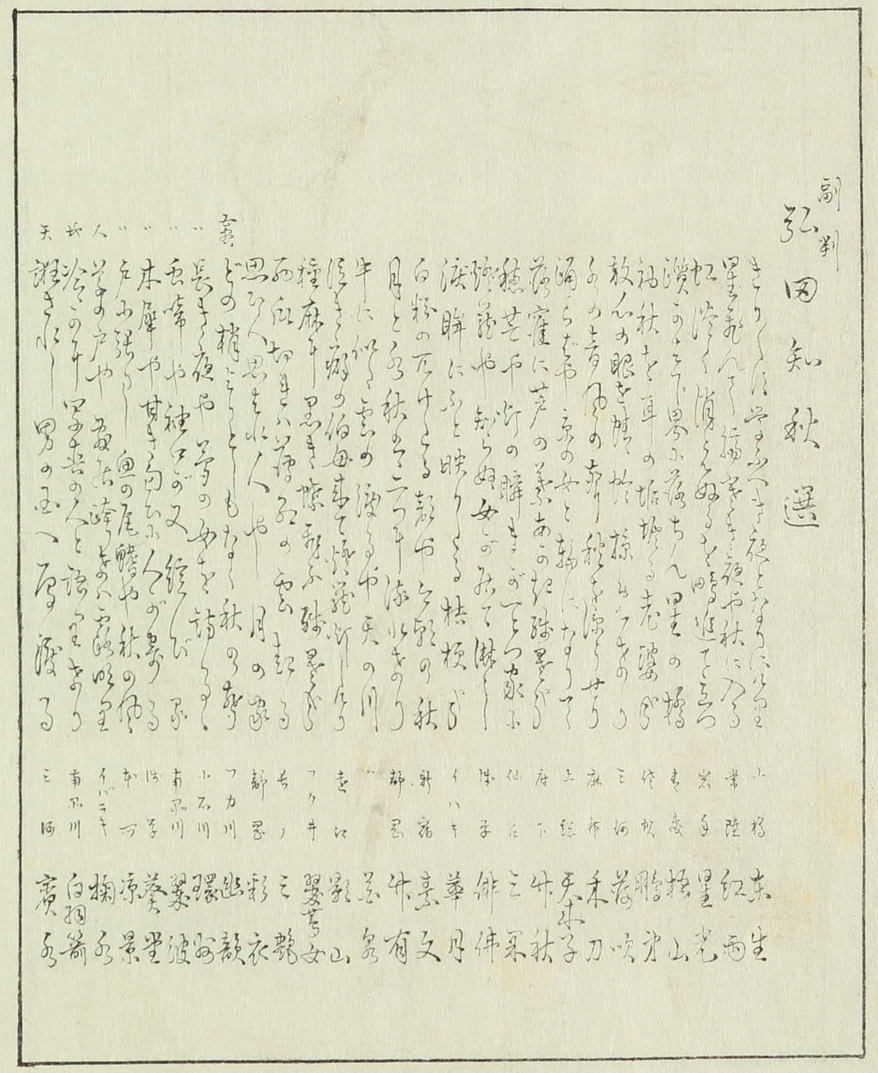
主判　五味　松塘　選

[illegible]

[illegible]

[illegible]

野ちき紅葉冊掛けて秋深し
俳諧小あき草に蜻蛉つるる夜寒かな　フカ川
蜻蛉とぶ草に秋の日暮れ　フクイ
一朝小春の女子　悪魔　松雨
小説の女子　悪魔　松仙
長き夜や小代の恋歌に泣く　ヨキ
芋の子や百姓清き浮世　十百舌
秋深し千代の恋歌に泣く　下ヤ
秋深し千代の恋歌に泣く　イバラキ
鶏の鳴く頃の月の明るき
男の鶏　高あらぬ恋の女子　長崎
長き夜や恋の女子　ヒナノ
夜半の秋深し　ふる川
恋歌に泣く　チクゴ
蜻蛉とぶ草に秋の月　ロ岩
碎け散る恋の涙の露　下ツケ
桔梗咲く恋の涙の露　ヒサ
月見て秋深し　上サ
月見て秋深し　アキタ
七夕や恋の歌　仙台
長き夜の恋の歌　ふる川
秋深し時雨　賞月
秋深し千代　核スカ
秋深し千代　信ノ
稲妻や恋の涙　仙台
白菊や恋の涙　ワカ山
稲妻や恋の涙　長山
秋の雨　ナゴヤ
秋の雨　ヨキ
秋の雨　フカ川
秋の雨　キヒ
秋の雨　ヒロシ
秋の雨　ヒロシ
秋の雨　ヒロシ



八幡鐘類題選　式

大正三甲寅年月三十日於
都の聚水句寂八幡鐘事無

秋　富士の初雪

年の内に降りそめし富士の雪　大橋石友

見そ仰ぎ以降富士山嶽に初めて降る雪をいふ。

初雪の富士の高嶺に降りそめし　黒川芭友

初雪の富士の高嶺に降りそめし　同陸恵

初雪の富士の高嶺に降りそめし　植村寛柳

初雪の富士の高嶺に降りそめし　宇治夕人

初雪の富士の高嶺に降りそめし　宗石

初雪の富士の高嶺に降りそめし　吉山雪舟

初雪の富士の高嶺に降りそめし　江田紫白

初雪や富士の高嶺に降りそめし　菊原俊白

初雪や富士の高嶺に降りそめし　小塚又七

松壇

秋　女郎花

女郎花　原古翠

女郎花　伊東白水

女郎花　松井仙

女郎花　河田千代

松壇

秋　別れ鳥

別れ鳥　朝比奈

人の事言はまじ別れ鳥　弘田知秋

別れ鳥　鈴木

別れ鳥　小笠原

別れ鳥　小宝東

別れ鳥　木村

別れ鳥　丹原

別れ鳥　増田

別れ鳥　原安

別れ鳥　本金

松壇

秋　新蕎麦

新蕎麦　唐橋

新蕎麦　柴力

新蕎麦　鈴木

新蕎麦　小笠原

新蕎麦　木村

新蕎麦　丹原

新蕎麦　増田

新蕎麦　原安

新蕎麦　本金

松壇

秋　月夜

仲秋の月夜　宇治

仲秋の月夜　宗石

仲秋の月夜　吉山

仲秋の月夜　黒川

仲秋の月夜　松井

仲秋の月夜　本金

松壇

妖怪俳句

大正三年九月　宮崎県

川の国坂本白雨八懸雛
妖怪俳句会を開く
秋の句廿五
妖怪に関する景物を
点ずる特別の外
句を俳壇の巻頭小
題みに寄せられたる
俳句を上下とし伏せ
合せ寄るなの前荒神様の
を格めたり、使ひ古したるの「せの」の
ハ、ハ、程拾ひ集せり、尚第五金部
ちらも多数は、ハ、ハ、ハ、ハ、
「お化鏡」の書の明あり、
の絵葉書を頒ちて一般会せる。○其一等
才二等　松柳、才三等　孫沢、才四等
点五、以下略

主判

標点表

天　罕五点　行の句
地　二十点　次別
人　三十五点　別特
二六樽　五　三十五点　接続詞
三十一点下　林　永
三十五点新　花　子
長ノ　花　泉
生者　三　艶
生者　梧　山

秋季混題三句合

入花（読代送費共）

主選　五味松塘選　一株（三句）金二拾銭　餘株（同）金五銭
会員に二株余株を通じて株金壱円宛
天（金弐円）地（金壱円半）人（金壱円）五点（金半円宛）

賓選　江戸庵機文選　三光五点に呈賞

餘興欄　妖怪俳句募集

秋季混題三句合（入花本集と同部）但し会員及び本集に應募せざる者は一方に二株余株を通じて一株金五銭宛

本金花抱選

三光五点に呈賞

◉入會規定◉

■會員は普通と特別との二種を置きます■普通會員は會費として一ヶ月金拾五銭三ヶ月分金四十五銭特別会員は毎月金壱円を維持費として納める前納する事■二種の會員には毎月發行の本誌一部宛を送呈します■普通會員本集へ花一株金五銭宛特別會員は無入花と致します■二種の會員の作品雜吟五句）は撰擇の上普通会員雜吟欄へ、特別会員は（絵入）へ掲載します■特別会員は一ヶ月限りでも差支ありません■普通会員の会費、特別会員の維持費の切り替場合は直ちに其待遇を停止します■会員は俳壇に於ける諸種の便宜を與します。

俳諧草紙　八まん鐘　才二聲　募集

秋季混題三句合

入花（読代送費共）

一株（三句）金二拾銭　餘株（同）金五銭
会員に二株余株を通じて株金壱円宛
天（金弐円）地（金壱円半）人（金壱円）五点（金半円宛）

賓選　江戸庵機文選　三光五点に呈賞

餘興欄　妖怪俳句募集

秋季混題三句合（入花本集と同部）但し会員及び本集に應募せざる者は一方に二株余株を通じて一株金五銭宛

本金花抱選

三光五点に呈賞

○投稿示規○〆切八九月三十日△用紙八一株毎に半紙を用ひ宿所氏名雅號記載の事△入花は必ず郵便為替に限る△投稿は萬安會俳句部宛を「八まん鐘」と表記する事。

◉八まん鐘俳壇御業内◉

日取は……九月二十八日夕六時から
場所は……例の巽の寺苔八まん鐘です
題は……後の雛、松前帰る、（一題一句宛）
島田は……一人前二貫文業書三枚以内
選者は……本会新業の「国扇抜」を
一名選の天位に
差上げます

大正三年九月二十日発行

編輯兼発行人　東京市深川公園地弁十二号　五味時雄
印刷人　仝　神田区久右門町三番地　中田治三郎
發行所　仝　深川公園地弁十二号　萬安會俳句部

代拾五銭